

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472300288		
法人名	株式会社 ひまわりあくと		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	広島県大竹市南栄2丁目6-31		
自己評価作成日	平成27年1月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3472300288-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3472300288-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年2月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家族との連携を深め、入居者と家族の関係をよりよいものになるように支援している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームさくらは、閑静な住宅街の一角にあり、平屋建てで2ユニットの造りである。通りから少し中に入っているので車の往来も少なく、周りは、散歩コースになっている。天候の悪い時は、2ユニットを繋げた一直線に延びた長い廊下で、廊下歩行を行うのが、恒例になっていて、午前中は、体操等、しっかり体を動かし、夜は、ぐっすり寝れるよう支援している。本来、グループホームの在り方は、職員と利用者と一緒に食事作りをしたり、家庭的な雰囲気でも過ごしてもらい、その様な場所作りの工夫がある。又、庭の一角に畑があり、収穫した野菜が、食卓に並ぶ事もある。趣味で、大正琴をされる利用者の周りで、自然に歌を口ずさむ光景が見られ、明るく笑顔があるホームである。
--

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	家庭的な雰囲気大切に、一人ひとりに沿ったケアを提供し、支援していく。職員全員が理念を心におき、ミーティング時に確認している。	ホームは、「入居者と職員がひとつの家庭として共に暮らせるよう、暖かい雰囲気の中で生活をサポートしていきます。」の理念を掲げ、職員全員が共有して、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地区の自治会に加入して秋の祭り(大竹まつり)や餅つき大会などの地域活動に参加している。今年は11月18日に大竹まつりに参加した。	地域の行事である大竹祭りや餅つき大会等に参加したり、地区の敬老会にも参加される利用者も居られ、交流している。	地元の職員が、地域の祭りに参加出来ない利用者のために、神輿をホームの近くまで、来てもらえるよう交渉している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行動は起こしていないが、今後の地域の高齢者の暮らしに役立つことがないかを話し合っていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一回開催している運営推進会議では、利用者の暮らしぶりや職員のケアに関する実態を報告し、外部の目を通じて意見や助言を得ながらサービス向上に生かしている。	運営推進会議には介護保健課職員、包括支援センター職員、老人会会長、自治会役員、民生委員、管理者、家族が参加され、活動状況報告や頂いた意見や助言を参考に今後の業務のスキルアップに役立っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町との連絡を密にして、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議のご案内や困難事例の相談・申請に関する相談等、日頃から連絡を取り、実情を理解してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、徘徊が多くまた目の届きにくい場所であるため家族の了解を得て施錠している。	身体拘束をしないケアの研修を受けており、職員全員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	平成26年8月19日に虐待防止の研修へ参加し、ミーティングで報告している。次回は別の職員の参加を検討している。		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の制度を知るために必要に応じて学ぶ機会を設けている。また制度を利用する入居者もあり活用できている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時は十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満・苦情へはすぐに対応するように入居者・家族・職員で話し合い、入居者の希望に沿うように努力している。	玄関にご意見箱を設置している。家族の面会時や日頃の状況を電話連絡した時等、意見や要望を聞き、(水分補給・嚥下対策等)対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時やミーティング時や終業後などの時間が取れる時に職員の意見を取り入れるようにしている。柔軟に対応していくように努めている。	月1回のミーティング時に活発な意見が出され、より良いケアに繋げるよう対応している(椅子に座った時に足置き台を設置・野菜作り等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人個人の力量を把握し、広島県社協やシルバー振興会の研修への参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設のケアマネとも交流を図り、情報を得たりして当施設のサービスの質を向上出来るように努力している。		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談時に本人の困っている事、不安な事を効く機会を作っており、また入居待機の間でもいつでも来ていただける体制を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の不安や困りごとを十分に聴き、また何を希望しているのかということも聴きながら信頼関係を築いていく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族とご本人が何を希望し、当施設がどんな事を支援できるかを十分に話し合い情報を共有して行けるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護するという雰囲気を出さず共に生活しているという関係であることを念頭に置き家庭的な雰囲気で見守っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族へは面会時やケアプラン作成時などにご要望を聞き、時には家族の協力もお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの友人の方にも面会してもらい交流が途切れないように支援に努めている。	いつもの散歩コースで出会う人、馴染みの美容院、コンビニ等、日常的な生活の中で、馴染みになった人達との関係も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が協力して生活していけるようにコミュニケーションを取れる支援をしている。(調理の準備や配膳の準備時で交流を深める)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、面会に行ったり、家族の相談に乗って関係を断ち切らないよう付き合いを大切にしている。		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者に希望を聴いたり、消極的な方にはこちらから聴き御本人が生き生きと暮らせるように努めている。	利用者一人ひとりが、その人らしく暮らし続ける支援を行っている。脱水状態だった方の好物を聞き、食べる事で意欲がでたり、好きだった趣味(大正琴)を続けることで、元気になるれたり、本人本位で、引き出していけるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談時に御本人の生活歴や環境を聞き取り、大きく変化の無いように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	施設のスケジュールもあるが、出来るだけ御本人が自由に活動出来るように、また心身状態にも気を配り小さな変化も記録に残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティング時に介護ケアを見直している。ご家族へは、面会時や遠方のご家族には電話連絡で生活状況を伝えご家族の意向を聴き、施設の意向を伝えている	通常、3ヶ月に1回見直しをしている。計画作成担当者を中心に職員皆で話し合い、家族の意向も聞きながら、その方の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録は介護記録をして残している。他に伝達ノートで気づきなどを情報共有し、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族からの要望には出来るだけ対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者生活の拡充のために地域資源を活用し、暮らしを楽しむことが出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院を確保しており、希望があれば他の病院に受診している。	協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられる体制がある。月2回、医師の往診があり、又、他のかかりつけ医の受診には家族が対応されているが、困難な場合は、職員が対応している。家族とは、健康面や安全面について信頼関係がある。	

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力病院の看護師、当ホームの看護師に相談・指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携で、情報を細かく報告・伝達し協力し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族や医師との話し合い後、職員家族との話し合い、希望に沿えるよう努力している。	利用者の重度化の対応については、入居時に「利用者重度化の指針」を説明し、ホームが出来るだけの支援を行うよう話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に行っていないが、ミーティング時などに確認しマニュアルに沿って対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	平成27年度はまだ行っていないが入居者が安全に避難できるようにこれから行っていきたい。	決められた年2回の避難訓練は、まだ出来てないが、これまでも消火訓練や避難経路等、行っている。運営推進会議において、地域の自治会役員の方に、避難訓練時の見守りの協力をお願いしている。	ホームの立地が川より低い場所にあり、洪水対策として避難場所の検討される事を望みます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々にあった言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの誇りを傷つける様な言葉遣いやプライバシーを損ねる言動には、注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人と向き合って話し、何気ない会話から思いや希望を表せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望や状態に合わせて柔軟に一人一人のペースを保てるよう努力している。		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で身だしなみが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜切りや配膳など一緒に行っている	食事が楽しみになるよう季節に合わせた食事を提供し時には、握りずしがでて喜ばれている。元気な方は、職員と一緒にキャベツの千切りやささがき牛蒡を進んで手伝われている。時には、レストランで食事に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量も要望があれば、応じている。食事の形態もその方々に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後義歯洗浄やうがいを励行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表の記録を基に排泄パターンを把握している。トイレ誘導は必要な方には声を掛けさせていただいている。	排泄のパターン表を作成して、パターンに応じた個別に声掛け誘導をしている。トイレでの排泄や排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便を促す飲料も取り入れている。軽い運動も行い健康状態の把握に努めている。水分量が少ない方は水分量を測定し医師や看護師に報告している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	2日に1日のペースで入浴しているが入居者の健康状態や希望によっては臨機応変に対応している、	週3~4回、一人ひとりの意向を聞き、くつろいだ気分で入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠に対しては個々のペースがあり、他の入居者への影響がないように配慮し対応している。日中の活動を重視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理はほとんどの方が管理できないため、こちらで預かり服薬する時は横で見守りしている。薬剤師と薬の情報や嚥下状態についても情報交換している。		

グループホームさくら

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割, 楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 嗜好品, 楽しみごと, 気分転換等の支援をしている。	一人一人の習慣や持っている力に応じて役割を見出し、食器洗いや洗濯干し、新聞折りなどを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望に沿って散歩や買い物に出れるように支援し、また家族の協力で墓参りや外泊なども出来るように支援している。	天気の良い時には、庭先で日向ぼっこをしたり、近くの公園に散歩に行ったり、買い物に出かけたり、日常的に外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブルなどもあるため現在は入居者は現金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望を尊重しながら支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールは自然の光を取り入れ、季節の花や壁画を飾り、居心地よく生活出来るように配慮している。	玄関周りは、綺麗に整備され、建物の内外も清潔保持に努めておられる。居間は、大きな窓から日が、差し込み天井も高く開放感がある。壁には、みんなで一緒に作られた季節に合わせた絵が飾ってあり、部屋を一層明るくしている。廊下の一角には、椅子が配置され、居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファでくつろいだり、テレビを見られる方やる利用者同士で話をしたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスやベッド、テレビなど今まで使っていた馴染みのものを持ち込んでもらっている。写真や思い出の品などを飾り、それぞれの居室作りが出来ている。	プライバシーを大切にしながら、居心地よく、安心して過ごせる環境作りに配慮しながら、馴染みのものを自宅から持って来ていただき、その人らしく暮らし続けることができるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホールや廊下、浴室に手すりをつけて安全に移動出来るようにしている。歩行は不安定な方には見守りをしている。		



V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームさくら

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームさくら

作成日 平成27年2月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流が、まだまだ出来ていない。	地域との交流を深めていく。	行事に参加してもらったり、声をかけてもらうようにする。	1年間
2	35	避難訓練が規定の回数出来ていない。	規定の回数、行うようにする。(消防署の指導1回、ホーム内で1回)	日頃から災害対策を意識して、ホーム内の一定場所に集まるなどして訓練する意識をす	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。